スカーレットにとってのタラの存在

大　友　亜津砂

『風と共に去りぬ』という作品は、主人公であるスカーレットの人生が描かれている。彼女はアシュレという男性をあまりにも長い間追いかけてしまったために、本当の幸福を逃してしまうのである。また、南北戦争によって貧困や死などに直面し、持ち前の強さで乗り越えていくが、数々の壁とぶつかる。この場面で必ずと言っていい程、彼女はタラへ帰ろうという決意をするのである。彼女にとって、タラという土地にどのような意味があり、そこには一体何が存在しているのかを考えてみた。

第一に、彼女の父親であるジェラルドの存在である。父親は先祖代々、自分の土地を非常に愛するアイルランド人であり、彼女もまたその血を受け継ぎ、姉妹の中でも最も父親に似ていた。そのため、彼女にはタラを愛する運命的なものを持っていたのである。

第二に、母親のエレンの存在である。スカーレットは母親を神と混同してしまう程、非常に尊敬していた。タラに帰れば悪い状態を良い状態に変えてくれる母親がおり、彼女は自分の傷を癒せたのである。

第三に、彼女の乳母であるマミーの存在である。マミーはエレンのの乳母でもあり、スカーレットをよく理解し、自分の娘の様に愛情を注いだ。マミーの存在は普通の母親的存在であり、安心感を与え、タラと共に作品の最後まで残った重要な人物である。

最後に、前述の３人を含めたタラの存在である。この土地は作品の中からも読めるが、母親的役割を持つのである。それは、やさしさや寛大さがあり、エネルギーを与えてくれる場所なのだと思う。また、彼女の妹達もタラの一部分であった。

誰にでも故郷というものがあり、それは特別な存在なのではないだろうか。その場所だけに留まってしまえば、自分の周りにあるものの価値が全くといっていい程気づかなかったりするものだと思う。それは、そのもの自体が何の変化もせずに、当然の様にあるからなのだと思う。故郷から離れて何かに直面した時に大切なものが分かるのだと思う。スカーレットには、父親と同様に他の人間か故郷に対する気持ち以上にタラへの思いはとても強く、それは大きな支えとなる大切なものなのだ。彼女を取り巻く人物を含めたタラは他人には見ることのできない力が存在しているのだ。つまり、安心ややすらぎを感じ、自分の傷を癒やす事ができる力があるのだと思う。人の心は動き、変化しても、全てを含めたタラだけは何事にも動じず、変わらなかった。そのため、彼女にとってタラは、最後に行きつく場所だったのだと思う。タラには以上のような意味が存在していたのだと考えた。

（指導教員　中村　敦志）